

令和4年度

# 地域教育力を高めるボランティアセミナー

実施日：令和4年12月15日（木曜日）～16日（金曜日） 参加者数：1日目122名  
会場：社会教育実践研究センター（ライブ配信） 2日目 39名

生涯学習社会実現のための持続可能な地域づくりに資するボランティア活動の在り方について学ぶとともに、事例研究や情報交換等を通して、参加者相互の交流を図る機会とした。

## テーマ：SDGsを促進するボランティア活動の在り方 ～学びの場、つながり、連携・協働の視点から～

※「SDGs」：持続可能な開発目標

### 基調講演

#### 「ボランティア活動と生涯学習」

全国視聴覚教育連盟

会長 馬場 祐次郎



馬場氏からは、ボランティア活動の定義や理念を整理していただいた上で、生涯学習社会の実現に向けたボランティア活動の意義や学習成果の活用の必要性についてのお話があった。

また、これからのボランティア活動のキーワードとして「先見 (anticipation)」、「参加・参画 (adaptation)」という視点が必要であること、さらに、これから特に意識したい方向性として、「学習成果と活動の場をつなぐ新たな市民参画システムの構築」、「地域人材の育成による持続可能な地域づくり」といった視点の重要性について、関係する法令や中央教育審議会の答申を踏まえながら示された。

#### 参加者の声

- 先見・参加・参画というキーワードのもと、実践の概念や考え方がよくわかる講演であった。
- 地域の課題を認識するためにも学びがあり、それらの課題を解決するためにも学びが必要であるということがわかった。
- 最後にお話があった「ひとづくりボランティア」の活躍がキーワードになるということが印象に残った。まさに地域学校協働活動ではその部分が最も必要であると考えていたので共感することが多かった。

### 事例発表

#### 「SDGsの視点から考えるボランティア活動」

NPO法人Gコミュニティ

代表理事 本堂 晴生



本堂氏からは、Gコミュニティ設立の背景として、群馬県において在住外国人が増加傾向にあることや、増加に伴い、外国人本人や地域住民の困りごとが顕在化している現状があることが示された。そして、地域の課題を解決するため、Gコミュニティとして、自律して交流活動を行うことのできる外国人の養成支援を行うことで、共生を通じた地域の活性化や、地域社会の発展につなげることを目的として活動を行っているというお話があった。

具体的な取組として、地域の外国人を支援する側（キーパーソン）として養成し、キーパーソンが地域の外国人をサポートするといった事業を例に挙げながら、「支援は目的ではなく手段であること」、「外国人が能力を発揮できる環境を作ること」、「社会が多様化することによるエネルギー創出」といった支援の考え方が示された。

#### 参加者の声

- 本堂先生の実践は、明確なビジョンがあり、多文化共生社会を作っていく上での希望を見た思いです。
- 「支援することは目的ではなく、何かを変えるための道具である」という言葉が印象的で、例えば地域学校協働本部についても、本部組織の設立や活動自体が目的ではなく、活動という道具を使って、学校や地域、参加者達に何が残せるかが大事だと思った。



## 講義・事例研究

# 「SDGsの視点から、持続可能な社会に向けたボランティア活動について考える」

〈コーディネーター〉 国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部

総括研究官 志々田 まなみ

〈事例発表者〉 岡山県早島町生涯学習課  
熊本県菊池市立菊池南中学校

係長 藤本 高志

教頭 長尾 浩史

地域学校協働活動推進員 渡邊 夕起子



志々田氏



藤本氏



長尾氏



渡邊氏

藤本氏からは、早島町がめざす子ども像「地域とつながり 未来を拓く はやしまっ子」を実現するための取組として「はやしま学」の事例を中心に発表があった。多様な主体と連携した「はやしま学」で得た学びを、地域に還元するプロセスをとおして、持続可能な地域ボランティアの養成につなげているとのお話があった。

長尾氏、渡邊氏からは、学教教育目標「『生きる力』を培い 未来を創造する 生徒の育成」を実現するための取組として、教育課程に組み込まれているESD（持続可能な開発のための教育）と連動した地域学校協働活動の事例を中心に発表があった。目的の共有と幅広い参画が大切であること、また、「1人が10回のボランティアより10人が1回のボランティア」といった考えのもと持続可能な地域づくりにつなげているとのお話があった。

志々田氏からは、二つの事例を踏まえ、よりよい世界にするための糸口として「解決すべき課題」から「解決したい（できる）課題」に転換していくことの重要性が示された。また、新たな学びの在り方として、一人一人が身近なことから他者や社会の様々な問題に至るまで関心を寄せること、また、社会を構成する当事者として、自ら主体的に考え、責任ある行動をとることができるようになることが大切であるとのお話があった。

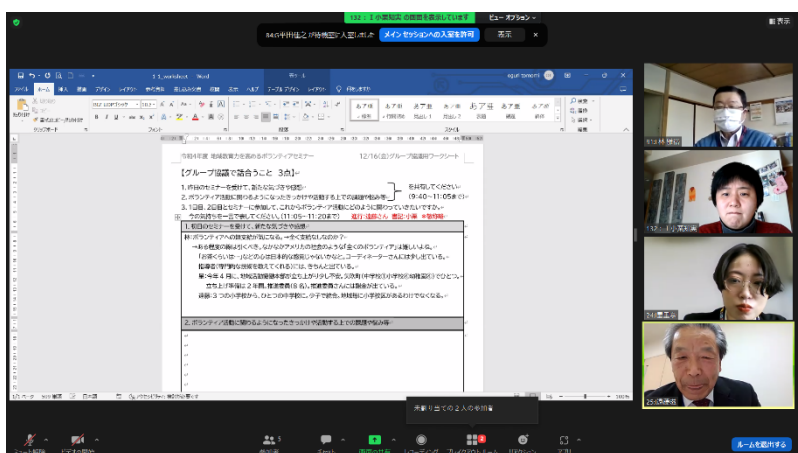
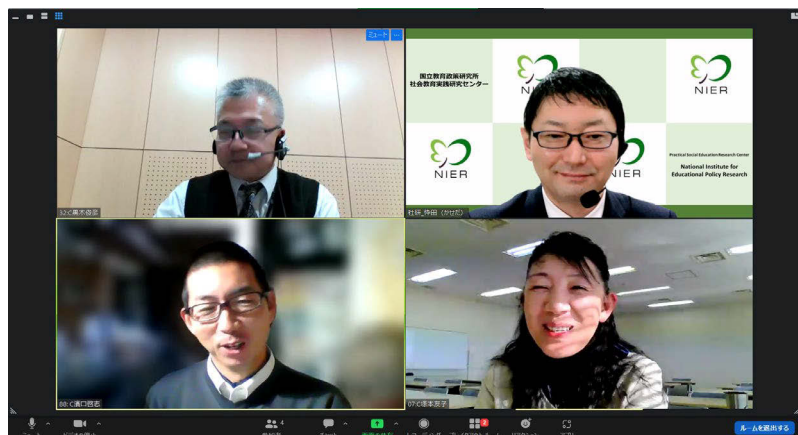
### 参加者の声

- 「はやしま学」は、教育委員会主体で地域総ぐるみで子供を育てるとともに、子供達は「学んだこと」を「地域へ還元」していくという取組であり、今後、参考にすべきものだった。
- 菊池南中学校の取組は、「教育」を核として、教科や委員会活動で「学んだこと」を委員会活動を中心に、主体的に「地域に貢献する」という持続可能な未来都市宣言にふさわしい事例で、すばらしい切口であると思った。
- 課題のサイズを、「解決すべき」から「したい」、「できる」へサイズダウンするというワードが印象に残った。

## グループ協議

# 「ボランティア活動における学びとかかわり」

社会教育実践研究センター 職員



グループ協議の様子

1日目のセミナーで得た学びや気づきをアウトプットする機会として、また、得た学びや気づきを自分事として捉えることができる機会となるようグループ協議を行った。

「1日目のセミナーを受けての新たな気づきや感想」、「ボランティア活動に関わるようになったきっかけや活動する上での課題や悩み」、「これからのボランティア活動へのかかわり」等について、ワークシートをパソコンの画面上に共有し協議内容を可視化しながら協議を進めることで、活発な意見交流・情報交換を行う姿がみられた。

### 参加者の声

- 研修に参加することで「同じように頑張っている仲間がいる」ということを実感でき、「明日からも頑張ろう!」という気持ちになった。
- 離れた地域同士で協議できたことが有意義であった。抱える課題などについて、アドバイスをいただいたり、抱える問題意識を交流することで、お互いに解決策を模索したりと、大変貴重な機会となった。
- 今回、新たなネットワークができたので、これを生かしてボランティアの推進に取り組んでいきたい。